

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	館長補佐	係長	記録

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】
【会議名：糸魚川市博物館協議会 専門部会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成 24 年 10 月 8 日

日	平成 24 年 9 月 29 日	時間	14:30 ~ 16:30	場所	フォッサマグナミュージアム 体験学習室
件名	議題(1) 博物館リニューアルについて (公開) 議題(2) H24 上半期の入館者数および博物館諸事業等 (公開)				
出席者	【出席者】 3人 大塚委員 天野委員 松岡委員 【欠席者】 1人 梶座委員 【事務局】 博物館 高橋館長 宮島参事(館長補佐) 竹之内副参事(学芸係長) 山本係長(業務係長) 茨木主任学芸員				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0人

会議要旨

1 開会 (14:30)

【事務局】 高橋館長あいさつ

2 議題

(1) 博物館リニューアルについて

【事務局】 竹之内副参事 配布資料について説明。

【館長】 高橋館長 リニューアルプランの変更点(5月以降)について説明。

質疑

【委員】 体験学習室は、リニューアル後にどうなるのか。

【館長】 体験学習室のまま。図に名称がないのは記入もれ。

【委員】 以前のプランにあった展示室0には何を展示する予定だったのか

【事務局】 青海自然史の展示物をこちらに持って来るので、その分展示スペースを広くする必要があるのであるため。予算(事業費)不足でこの増築はなくなった。

【委員】 研修室・企画展示室の机は可動式か。

【事務局】 可動式。学会等での研修、修学旅行での体験学習などにも使える。多目的なスペースと特別展示室。

【委員】 企画展示室は有料ではないのか。

【事務局】 現在は無料にすることを考えている。料金の徴収が必要であれば人員を 1 人つける必要がある。

【館長】 有料とする場合、以前の計画で特別展示室は受付から遠いところにあり、そこに 1 人配置する必要があり、人道的に問題があったが、現在の位置ではその問題が解消される。

【事務局】 竹之内副参事 議題(1)について説明。

質疑

【委員】 第 6 展示室の北側の端は、入口の方と行き来できないようにするのか。

【事務局】 行けないことにする。閉塞感があるかもしれない。

【館長】 ストーリーを理解してもらうためには順に見てもらいたい、

【委員】 もう 1 回見たい人のために少し開けておくことはできないか。

【事務局】 見通せる状況にするのは演出上よくない。

【委員】 フォッサマグナの展示がちょっと弱い。

【委員】 フォッサマグナのことが視覚的にわかる展示が必要。

【事務局】 大型のディスプレイで映像を映す展示にしたほうが、コストがかからないし、変更も可能。

【委員】 フォッサマグナのイメージも以前と変わってきている。

【事務局】 できれば見学者が関わりを持てる展示にしたい。

【委員】 梅海新道の展示がこの位置にくる理由は何か。梅海新道にある石は西側のものだが、第 4 展示室の北面の端までを日本列島成立にして、その後を自然と人の関わりにはどうか。

【事務局】 現在のフォッサマグナの展示で弱いのは、第四紀の地形の形成と地震の関わり。梅海新道の高山に高山植物が残ったことなどを入れようと考えた。

【委員】 恐竜の時代の資料は充分にあるのか。

【事務局】 中生代の石は、親不知火山岩類、薬石など、意外と資料がある。小谷村の足跡レプリカも。子どもに人気がある。これから見つかるかもしれない。化石だけにとらわれず、いろいろな事象を紹介すればいいのではないか。

【委員】 古生代の新種の化石など、特別な化石を展示するコーナーはあるのか。

【事務局】 第 2 展示室に予定している。

【事務局】 新種以外にも、地学史の上で重要なものも取り扱うといい。ヒスイの発見史なども。

【委員】 日本の石灰岩の展示は、これを見れば日本の石灰岩がわかるようなものか。

【事務局】 現在青海自然史にある、50 個ほどの石灰岩(結構大きい)を、割って小さくして壁に貼り付けて展示する。

【委員】 糸魚川ジオパークのコンセプトにある「多様性」があまり強調されていない。ジオパークのコンセプトがわかるような、連携があればいい。例えば、石灰岩の化石は、個々の化石は見栄えがしないが、一揃いがあると迫力がある。模型の活用。国立科学博物館での恐竜展では、実物の標本より復元模型のほうが人気があった。実物は実物として、他にディスプレイとしてわかりやすいものがあったほうがよいのでは。マイクロ CT の技術で作成した模型について協力できるかもしれない。

- 【館長】腕足類について、きれいな形・意外な形をしているが、もう少し大きくして見せれば、関心をひくかもしれない。
- 【委員】青海自然史のジオラマと、実物の化石と、どう連携させるか。
- 【事務局】ジオラマの中に番号をつけて、化石と対応させるなど。
- 【委員】復元が古風な感じがする。表現が難しいが、一時代前のもの。
- 【事務局】照明のあて方でも見え方が変わる。模型の追加もできる。
- 【委員】例えば、腕足類とはどんな生き物か、を見学者がぱっと見てわかるような工夫が必要。
- 【事務局】「参加型」を意識しないといけない。見学者が、感じた疑問の答えを自分で探していくような仕掛け。国立科学博物館には、タッチパネル式のものがある。
- 【委員】例えば、石灰岩の模型の表面をはがすと、中に腕足類の化石が入っているような。
- 【委員】触れることは大事。新潟大学のサイエンスミュージアムにある漣痕は、みな触っていく。
- 【事務局】移動距離は現在と比べて1.4倍くらい。情報量は多くなる。第4の半分まではほとんど地元の標本。
- 【委員】中生代のコーナーも地元のもので構成するのか。
- 【事務局】参考資料としてよそのものを使ったほうがいい場合は別。アンモナイトのアマルチウスは、海外によい標本があるので並列して使うとわかりやすい。
- 【委員】新潟大で学位をとった学生の標本がある。これから新潟大に登録されるので、活用できる。距離が長くなるが、早回りもできるのがよい。新潟市から見学に来ると見学時間が短いので。
- 【事務局】時間がない人向けに、時間がない時にはどこを見るべきかを示したらよい。
- 【委員】ヒスイ関連の展示はどうなるのか。
- 【事務局】第1はヒスイのギャラリー的展示。第2の一部はヒスイの科学的な展示。
- 【委員】ヒスイの展示面積は増えるのか減るのか。
- 【事務局】2館から1館にするので、減る。展示の仕方を工夫する。現在は新鉱物の展示がないが、第2に展示する。
- 【委員】全体のイメージづくり、雰囲気づくりはどうなるのか。
- 【事務局】これから決める。
- 【事務局】提案していただくとありがたい。
- 【事務局】現在は造作と壁のすき間が大きいので、小さくする。
- 【委員】海岸の石の展示は、20~30人で見学するとどうなるか。
- 【事務局】実物図鑑として使ってもらいたい。例えば複数セット置くなど工夫したい。
- 【委員】ある1つの名前前の石でも見た目のバリエーションが大きい。小さい石では情報量が少ないので判別が難しい。大きな石のいろいろな部分でバリエーションを示せないか。
- 【委員】置いてある石を手にとって、自分が持ってきた石と比べるようにできないか。
- 【事務局】触れることは重要。自分で調べて答えを導き出すことが大事。
- 【委員】福井市立博物館に、「岩石バイキング」というコーナーがあって、好きな石を選んで持ち帰れるようになっていた。
- 【事務局】子どもたちが夏休みの宿題に利用するのに、入館料をとるのはどうか。入口の無料コーナーでもいいのではないか。
- 【館長】ジオパーク情報センターとの棲み分けをどのようにするのか。

- 【委員】（海岸の石の展示は）ジオパーク情報センターを利用したほうがいいのでは。
- 【事務局】 ジオパーク情報センターには、化石の谷で採集できる化石の実物図鑑も展示したい。
- 【館長】 化石の名前は、化石の谷の看板を充実させればいいのではないかな。
- 【事務局】 現第2、第3展示室の中央の大きな構造物がなくなるのは大きな変化。
- 【委員】 その機能は（リニューアル後に）どこかになくてよいのか。
- 【事務局】 古生代の映像、フォッサマグナの映像がある。
- 【委員】 フォッサマグナの固定した模型を作るのは馴染まないが、視覚に訴える展示が作れないか。
- 【事務局】 海水を取り除いて、富山湾深海長谷、伊豆～マリアナを示し、糸魚川のあたりに裂け目があるようなことが示せる、といった展示をどこかに置きたいと個人的に思う。中部日本オーダーのフォッサマグナを示すのは難しい。
- 【事務局】 現在はパネル展示だが、平面に置けば一般の人にわかりやすい。最近は立体模型に投影によって色を付ける方法がある。
- 【委員】 関東地方の地下構造がよくわかってきて、地表に出ているものだけでイメージする今までとは違ってきている。
- 【委員】 フォッサマグナのコンセプトについて、FMM 内での統一的な考え方はあるのか。
- 【事務局】 建設当初は、フォッサマグナの範囲は、共立出版の本にある植村さんのフォッサマグナを採用し、フォッサマグナのできかたは、割れた時のことは立石さん・志岐さんのオラージンの説を採用し、それ以降は平朝彦さんの説を採用した。しかし、植村説には賛否がある。ナウマンの説を採用すると、新潟県側の展示ができなくなるので、植村説を採用している。ナウマンのフォッサマグナはナウマンのコーナーで展示している。
- 【委員】 新潟大学の一般教養の地学の授業を受ける学生には、フォッサマグナという言葉は浸透している。糸魚川という地名から連想するものを聞くと、皆フォッサマグナと答える。ジオパークという言葉はまず返ってこない。ここに来てフォッサマグナについて学生に正しく学んでほしい。
- 【委員】 糸静線とフォッサマグナを多くの人が混同している。糸静線は単なるフォッサマグナの西縁とは言えないという面もあり、難しい。
- 【事務局】 フォッサマグナを扱うのは全体の1/3以下。年配の人の中には、フォッサマグナミュージアムという名称なのでフォッサマグナだけの博物館だと思ってしまう方もいる。名称の変更について提案したこともあるが、すでに定着している。
- 【委員】 海岸の石の展示にある「E（イースト）」にはどのような石を展示するのか。「W（ウェスト）」にはいろいろな石があるが。
- 【事務局】 泥岩や砂岩は少ないが、ひん岩など貫入岩などもある。西より東のほうが面積が少ない。
- 【委員】 糸魚川で見られる石の種類数は、公式な見解はあるのか。キャッチフレーズとして具体的な数を挙げると、子どもたちは全て集めたがる。
- 【事務局】 公式な見解はない。
- 【委員】 地方でよくやっている 検定のように、石の種類を検定をしてみたら。
- 【事務局】 ジオパーク検定をやっているが、実技試験は無い。ガイドの検定には実技がある。
- 【館長】 はっきりといくつと言ったほうがわかりやすい。
- 【事務局】 岩石は扱いによって数が変わってくる。石の数は「たくさん」。鉱物なら明確に決めら

れる。

【委員】 最少の数を決めて、もっと細かく分けられる、としてはどうか。

【事務局】 いろいろな人が来るので、いろいろな人が満足するような展示にするべき。展示パネルに難しい内容を入れると普通の人は引いてしまうが、より詳しい情報を欲する人にどのように情報を提供するか。コンピュータを使った情報提供がいい。

展示物の量が増えるので、見学者のテンションを保つ工夫が必要。

【事務局】 見た目、印象が重要。各コーナーごとに色合いを変えるなど。難し過ぎても困る。

【委員】 ドイツの美術館に、特に見るべき展示物がわかるような表示があった。

【事務局】 よその博物館に、時間がない人向けのパンフレット（見逃せない展示が示してある）がある。

【事務局】 宮島館長補佐 ドイツでの M&M（鉱物学と博物館に関する国際会議）で見学した博物館の事例報告。

質疑

【委員】 M&M が開催されるようになった経緯は。

【事務局】 4年に一度開催される IMA（国際鉱物学連合）の国際会議に、博物館と記載鉱物学のセッションがあり、そこには博物館関係の人が来ていた。IMA では規模が大きすぎているような講演が聴けないので、鉱物学に関する博物館関係者だけの学会をしようということから始まった。最初はロンドン。これまで、ヨーロッパとそれ以外の地域で交互に開催している。次回 2016 年は糸魚川が日本鉱物科学会と一緒に名乗りを上げたが、まだ開催地は正式には決まっていないが、他に立候補がなかったので糸魚川開催になりそう。糸魚川開催が決まったとしても、糸魚川だけで完結させず、東京 糸魚川の見学旅行、糸魚川 - 関西の見学旅行もセットにしたら、という意見もある。近隣の大学の協力が必要。2016 年の日本鉱物科学会の年會を糸魚川に近い大学（新潟大、富山大、金沢大、信州大）で開催してもらい、糸魚川と連携するという案が日本鉱物科学会の評議員の中で出ている。

【事務局】 大学博物館には一般の見学者が理解できるような展示はないのか。アウトリーチは意識していないのか。

【事務局】 ベルリンの工科大学は一般公開していない。結晶模型の展示などがあるところもあるが、FMM のような展示ではない。パネルは少なく、実物主義。

（2）H24 上半期の入館者数および博物館諸事業等

【事務局】 時間がないため説明は割愛

3 その他

【館長】 高橋館長 今年のリニューアルに関するスケジュールの説明。

【委員】 松岡委員：新潟大学あさひまち展示館にジオパークの展示があるが、糸魚川ジオパークの展示ケースに空きがある。展示標本について協力していただきたい。

4 閉会 16：30。